

日 本人の英語理解と英語上達を妨げてきたのは、読み書き中心の英文法重視、すなわち、聞く、話すといったコミュニケーション英語の不足のためだと以前から叫ばれ、高等学校ではオーラル・コミュニケーションが導入されるようになり、ついには、英文法を体系的に取り上げることが、以前と比べて格段に少なくなりました。

そして、大学受験の段階になると、ただ問題を解くために必要とされる「ルール」(もっとはっきりいえば、目の前の問題を解くためだけの断片的な文言)を暗記することで、その場をしのごう。

さらに、体系的な英文法の姿を知らぬまま大学生や社会人になってから、今度はTOEIC[®]などの資格試験で点数を上げるため、あるいは英会話学校に通う、といったように、膨大な時間と費用をかけて、英語をやり直す.....

残念ながら、これが現在の多くの英語学習者の実情ではないでしょうか。

日本語の文法を知らずに我々日本人は日本語を読み書きしているわけでは決してありません。まして、外国語である英語を使うのに、(実は、読み書きに限らず会話においても)英文法を理解しないまま、使いこなせるはずはないのです。英文法そのものが悪いのではなく、体系的な理解をしないまま、英文法のそれぞれの事項を暗記するだけで、その本当の意味を知らなかったためなのです。しかもその断片的な知識の中には、誤って教わり覚えてしまったものが、実は多々あります。

たとえば、「時・条件を表す副詞節の中では、未来のことでも、willではなく現在形を使う」——これは、みなさんが今までいやというほど叩き込まれてきたルールだと思いますが、考えてみれば、こんな文言を、英米人は子供の頃に親(や教師に)叩き込まれているとは到底思えません。(その「真相」はNo.18を見ていただければわかります)

また、説明のつかないものは、すぐに「例外」で逃げてしまっていないでしょうか？

もちろん言語には、理屈で説明しきれない部分があるからと、それは確かです。しかし、一部解明し切れないものがあるからといって、すべて解明できないと考えるのは、きわめて短絡的であるといわざるを得ないでしょう。

本書は、「今まで当然と思っていたが実は意味のない文法用語」と「実用的でない学校英文法」の欠点を切り崩し、その真相を解き明かします。

本書で扱う文法とは、読み、書き、話すさいに文を組み立てるために必要な考え方であり、文法のための文法ではありません。つまり、「だから何なんだ？」といったトリビアではなく、また重箱の隅を突くようなものでもなく、ある程度文法学習を進めてきた人たちが、ただ「ルール」として教わり、長年、疑問に思いながらも解決できなかった、あるいは、暗記でごまかしてしまった——つまり、なぜそうなるかをほったらかしにしたままやり過ごしてきた疑問点の「真相」を解き明かすものです。したがって、本書で指摘した内容の中には、みなさんの目からうろこが落ちるようなものも多く含まれていると思います。

本書で扱う項目には、かなり高度なものも含まれていますが、わかりやすい解説をめざしたつもりです。筆者の基本方針として、本来、単純明快なことを、わざわざ難解にすることは一切していません。

本書刊行にいたるには、「ブレイス」山内昭夫氏の数々の貴重なご意見や助言をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。

本書を読むことで、みなさんが、社会人であれ、大学生であれ、また大学受験生であれ、英語の奥深さ、あるいは、面白さを感じていただければ、この上ない喜びです。

2006年11月

佐藤ヒロシ

■ 本書の構成——どこからでも読める

本書は、基本的に一つの項目が見開き2ページ（ときに4ページ）の構成になっています。

最初から順に読んでいただいても、目次や索引などから興味のかれるテーマを適宜選んで読んでいただいてもかまいません。

■ 相互参照を活用しよう——断片的なルールの暗記からの脱却

各解説と関連する内容は、随時、参照すべき項目の番号（No.～）が載せてあります。

はしがきにもふれたように、本書で扱う内容は、断片的なルールではなく、いわば、従来ばらばらに扱われてきたさまざまな項目のつながりを明らかにする面もあります。関連項目との相互参照により、よりいっそう理解が深まるはずです。

■ 「これが真相!!」——各項目のまとめ

各項目の最後に、「これが真相!!」として、その項目の内容をコンパクトな形でまとめてあります。

■ 引用した大学入試問題について——すべての読者に役立つ

本書には、随時、大学入試から抜粋した問題が掲載してあります。それらは、みなさんの、その項目の内容に対する理解を確認、または深める、あるいは、新たな問題提起としての役割を担う効果を狙ってのものです。こうすれば解けるなどの、解法のためのノウハウに関するものは一切扱っていません。

社会人や大学生の方なら、以前、受験時代にご自分が受けた説明を思い出しながら取り組んでいただければ、各項目のテーマ（解き明かされる真相）に対する理解がなおいっそう深まるはずです。